

～楽しさが力となるこれからの家庭教育支援～

瑞浪市社会教育委員会提言の方向

令和8年7月14日 K

令和8年度 瑞浪市社会教育委員会研究テーマ（案）

「学校・家庭・地域でつなげる家庭教育支援の在り方」 ～子供が育つ楽しい家庭教育を支えるために～

1 社会教育委員会として目指す家庭教育支援

保護者の不安を和らげ、楽しく家庭教育ができる仕組みを提言する

2 調査研究の在り方

- ① 社会教育として家庭教育をどのように支援することが可能かを調査研究する。
- ② 教育委員会が提言を受けて、実施可能な具体性のある調査研究とする。
- ③ 社会教育委員会として教育委員会に提言するために、瑞浪市教育委員会が実施している「家庭教育支援」についての現状と課題をとらえ、これからの家庭教育支援の在り方を調査研究する。

「必要な保護者が
きてくれないもん」
が解消できる提言

3 提言のポイント

① どんな課題を重要視するか。

- ・保護者の孤立感や子供の基本的な生活習慣の乱れを改善できる家庭教育支援
- 「家庭の教育力」が低下していると思う理由（令和7年度県政モニターアンケートより）
 - ・「しつけや教育の仕方がわからない親の増加」
 - ・「共働き家庭やひとり親家庭の増加」
 - ・「過保護や甘やかし・過干渉の親の増加」
- ◇家庭の状況や親の関わり方の変化がある。

以下、瑞浪市でも
同様の傾向を示す
のではないかな。

② 「家庭の教育力」を向上させるために必要なことは何か

- ・家庭教育に困ったときに相談できる身近な相手
- ・家庭教育に関する親の学習
- ・地域や職場の家庭教育（子育て）への理解

瑞浪市でも県と同様の傾向を示すであろうが、客観的なデータとして、前提となる瑞浪市の保護者の実態（意識）をつかむ必要がある。（調査）

③ 保護者が家庭教育について学びたいテーマは何か

- ・善悪の判断
- ・命の大切さ
- ・社会のルール

4 家庭教育力低下と向上の要因分析(令和7年度県政モニターアンケートより)

教育力 低下 の要因	・親子の接触時間の減少 ・スマホ普及による親子のコミュニケーション不足
親の 不安 と関わり方	・親が子供にどう関わるべきか不安を抱えている ・家庭教育力低下の一因
教育力 向上 の要因	・親が学べる機会提供や相談相手の存在 ・地域や職場の理解 ・育児講座や支援体制制度の充実

5 家庭教育力を向上させるための要因(仮説)

- ・親子の接触時間を増やす
- ・メディアの活用を工夫し親子のコミュニケーションを増やす
- ・子どもへの関わり方を学んだり相談したりする機会を増やし不安を解消する
- ・地域や職場の理解を高め、親が気軽に学べる環境をつくる

◎瑞浪市においても以上のような仕組みをつくれれば、保護者の不安を和らげ、楽しく家庭教育ができるようになるのではないかな。

6 瑞浪市の家庭教育力を向上させるための2つの柱と1つの前提案

① 学習機会の提供(柱Ⅰ)

- ・PTA 家庭教育学級の支援(**実施を目的としない。学級というネーミングに楽しさはあるか**)
- ・保護者情報リテラシーの向上(学校→PTA)(**困っているのも可能性があるのもこれ**)
- ・地域(公民館)と連携した家庭教育学級の学習機会の提供(**アイデアの出どころではある**)

② 学校、家庭(PTA)、地域(CS)が連携して取り組む家庭教育支援(柱Ⅱ)

- ・学校、家庭、地域が連携した家庭教育支援(**連携とは何をすることかを明確にしたい**)
- ・地域の特色を生かした子どもを育てる取り組みの充実(**CSを活用できないか**)
- ・子ども自身の社会貢献活動への参加推進(**成長した子供の姿としての目安にできないか**)

◎ 家庭教育を向上させるための1つの前提「**楽しさ**」

- ・研修等の学ぶ場に保護者が参加してもらえないことを嘆くのではなく、参加してもらえるのは余程の魅力がある場合のみと考える。その余程のことは「**楽しさ**」である。
- ・「**楽しさ**」の中身として、「研修の内容や講師の魅力」、「保護者同士の交流や会話」、「子供との触れ合い」、「子供の成長」などが考えられる。**(こんな楽しさがあれば…を考える)**
- ・柱Ⅰ、柱Ⅱの中に「**楽しさ**」をどう取り入れ、実感できるようにするのは熟議が必要である。

※瑞浪市の家庭教育に関する実態をどのように収集するか…

- ・市P連との懇談、アンケート調査、聞き取りなどを通して、客観的なデータを得る必要がある。